

赤ちゃんの特徴

生まれて28日までの赤ちゃんを新生児といいます。

この時期はお母さんのお腹の中にいた環境から、外の世界への環境に慣れていく大切な時期です。

頭

赤ちゃんは生まれてくるときに狭い産道を通ってくるので、頭が圧迫されて形が左右対称でないことがあります。

多くは2~3日くらいでなくなります。

大泉門と呼ばれる頭の柔らかい部分は1歳半くらいまでに閉じます。

目

まだ視力は弱く30cmくらいのところがぼんやり見える程度です。1カ月になると物をじっと見つめ、2~3ヶ月には、物を目で追うようになります。

口

すでに味覚があり、おっぱいのように甘いものが大好きです。

口の中にミルクかすのようなものがついていることがあります。

性器

男の子→陰のうはくろずんでいることがあります。

女の子→生理のような出血、白いおりものはお母さんのホルモンの影響なので、心配ありません。

皮膚

羊水の中で浮いていた赤ちゃんにとって、外の世界はとても乾燥した世界です。そのため、皮膚が乾燥しカサカサになることがありますが心配ありません。乾燥が気になる場合は、赤ちゃん用の保湿剤で保湿をしてあげましょう。胎脂という白いものがついていることがありますが、次第に吸収されます。

耳

大きな音にびっくりしたり、あやされるとおとなしくなったりとよく聞こえています。女の人の声のような高めの音が好きだといわれています。

たくさん話しかけてあげましょう。

当院では希望者に赤ちゃんの聴力検査を実施しています。

お腹

全体的にぼっこりしています。赤ちゃんはお腹を膨らませて呼吸をしています。お腹を締め付けないようにしましょう。

おへそ

おへそは5~7日で乾き、1~2週間で自然にとれます。沐浴の後は、アルコール消毒をしましょう。おへそがとれてから、出血をしたり膿が出たりして消毒をしても良くならない場合は、小児科を受診してもらいましょう。

全身

力強く泣き、お乳もよく飲みます。

手はW字、足はM字に曲げ、よく動かします。

首はまだぐらぐらしますが、3~4か月になると首がすわります。



おっぱいを吐く

赤ちゃんの胃の形は大人に比べて縦長で、胃の入口の筋肉も発達が未熟でしっかりしていません。そのため口の横からたらたとおっぱいがでてくることがありますが、赤ちゃんが元気で体重が増えているようであれば問題ありません。

おっぱいやミルクを飲む時に空気も一緒に口に入るので、ゲップをさせてあげないと空気と一緒に吐いてしまいます。授乳後はゲップをさせてあげましょう。

ビタミンK 欠乏症

母乳にはたくさんの栄養素が含まれていますが、唯一少ない成分がビタミン K です。ビタミン K が少なくなると、生後3週間から3か月の間に突然、頭蓋内出血を起こすことがあります。(4,000人に1人) 当院では、どの赤ちゃんにも「生まれた時」「生後4日目」「1か月健診」の3回、K2シロップを投与しています。(1か月健診時には、ママ自身に飲ませてもらいます。)

生理的黄疸

お腹の中で使われていて、生まれてからは必要なくなった赤血球が壊れることで出てくるというビリルビンという黄色い色素によって皮膚が黄色くなります。生まれてから3~4日目が1番黄色っぽくなり、徐々に黄色い色は消えていきます。母乳の場合は黄疸が長引く場合があります。

入院中は毎日黄疸のチェックをします。黄疸が強い場合は光線療法という治療を行い、ビリルビンを分解します。光線療法を行う場合小児科に入院となりますが、お母さんの面会・直接授乳は可能です。

生理的体重減少

赤ちゃんは、生まれてきてからの数日間飲むおっぱいの量より尿や胎便・水分の蒸発など体から出ていくものの方が多いので、一旦体重が減少します。生まれた時の体重の5~10%減少し、7~10日で生まれた時の体重に戻ります。

スキンシップ

赤ちゃんは肌の触れ合いを通して、自分はこのにいていいんだと安心感を得ることが出来ます。スキンシップは親子の絆を深めるだけでなく、赤ちゃんの発達にもよいと言われております。生まれただけの赤ちゃんにどう接したらよいか戸惑う人も多いと思いますが、これは自然なことなので焦らなくて大丈夫です。たくさん触れて抱っこして、たくさん話しかけてあげましょう。



赤ちゃんのうんち

ママのお腹の中にいる間、赤ちゃんの腸は動いていません。

「胎便」という、私たちが普段するものとは違ううんちをため込んでいます。

このうんちは黒っぽくてネバネバしています。

おっぱいをのむようになるとだんだん黄色っぽいうんちに近づいてきます。

時にうんちに白っぽいものが混ざることがありますが、異常ではありません。